



八戸学院大2年
根本ひかるさん(19) 〓八戸

<ねもと・ひかる 1999年、八戸市生まれ。八戸第一中学校卒業後、サッカーの強豪校・聖和学園高校(仙台市)に進学した。現在は八戸学院大学健康医療学部人間健康学科2年。体育教師になるため勉強と女子サッカー部の両立に励んでいる。ポジションはフォワード>

教育政策重視したい

選挙を見つめて

19あおもり

県議選で幕開けした統一地方選をはじめ知事選、参院選などが続く本県。12年に一度の亥年選挙に、県内の人たちは選挙や政治について何を考

① 選択の春に④

えるのか。10代から60代までの6人に、各選挙の節目ごとに定期的に思いを聞いていく。

(本紙取材班)

◇ 今年7日、県議選は投票日を迎える。

投票に当たって八戸学院大

学2年の根本ひかるさん(19)

〓八戸市は「教師を目指し

ているので教育政策を重視し

たい。子どもの虐待など痛まし

しい事件が多く、行政がしっ

かりサポートする態勢が必要。困っている人に手を差し伸べる人に1票を投じたい」と話す。

障害者の相談支援専門員を

務める中村立春さん(44)〓青

森市〓も「福祉の世界は、市

場原理の世界ではない。人を

大切にしてくれる人に投票し

たい」と強調。

一方で県議選が6選挙区で

無投票だったことに「新しい

意見や発想が反映しない状況

が継続する印象。県議選を、緊張感を持って意見を言い合える状況に変えてほしい」と述べた。

「子どもたちのために、将

来のために、こういうことを

しようとはっきり伝えてくれ

る候補者を選びたい」という

のは、パン店を経営する中川

礼子さん(58)〓むつ市。店に

来る人たちを見ていると、子

どもが幸せになってほしい、

親が子育てしやすい環境にな

ってほしいと思」と語る。今の社会や政治に対し、中村さんは「今の世の中は人と人とのコミュニケーションがうまく働いていないように思う。自分が良ければいいというか。政治では数の力を感

じる。少数派の意見が大切に

される政治であってほしい」と

話す。

「県議の人たちには失礼か

もしれないが、選挙の時だけ

来て、あとは法事や結婚式に

電報を打っているくらいというイメージ。政治は一番速い世界のように感じる」と中川さん。「私が投票しても変わらないんじゃないかと思うこともあるけれど、選挙には行くようにしている」という。

根本さんは「政治に不透明

さを感じる。テレビで国会中

継を見ているも明らかな矛盾

を感じることがある。誰もが

納得できる公正な政治を期待

したい」と率直に語った。